

朋有り、遠方より来たる。亦た楽しからずや（『論語』学而第一）

私が気仙沼市にいた3年2カ月の間には、20組以上の人達が気仙沼や津波の被災地に来てくれました。檜葉町に来て、早や6カ月、誰も福島には来ませんでした。10月8日～9日、1泊2日で、初めて葛飾時代の悪友2人が来てくれました。

常磐線いわき駅で友人を迎え、午後からは国道6号線を北上しました。広野町・檜葉町まで人が住めます。最初は、富岡町に行きました。途中には、福島第二原発が眺められます。JR常磐線富岡駅は津波の被害によって、駅舎と線路は取り払われています。残されて草が生えたホームだけが昔の面影を残しています。次は、福島きつての桜並木がある夜ノ森へ行きました。桜並木の途中では柵があって、ここから先は帰還困難区域のために通行禁止です。

大熊町と双葉町は帰還困難区域。国道6号は車では通過できますが、停車することはできません。もちろん二輪車は通行禁止です。国道6号の両側は、道路も家も全てが柵をされています。ちなみに、放射線量は最高で4マイクロシーベルトです（基準値は0.23マイクロシーベルト）。途中には、福島第一原発が眺められます。

JR常磐線浪江駅の駅舎の中は、3・11のままです。駅前商店街には車は停まっていますが。人はいません。駅前には、「高原の駅よ さようなら」の碑があります。もちろん本当の「無人駅」です。次に、請戸漁港へ行きましたが、途中までしか行けませんでした。壊れたままの家があり、津波の後の原発事故で、5年9カ月、時間は停まったままです。

最後は相馬市の名勝松川浦漁港へ行きました。多くの漁船が停泊していました。帰りは常磐道に乗って、宿泊先の檜葉町天神岬へ戻りました。

2日目は、磐越東線と夏井川と並行して走る県道41号線を、いわきから船引まで行きました。磐越東線と県道41号線が何十か所も交差します。古い踏切あり・トンネルあり・鉄橋ありで、鉄道ファンには堪りません。夏井川は、春は千本桜（一見の価値あり）、夏は釣りや川遊び、秋は紅葉と四季を通じて楽しめます（冬は寒ソウ）。

船引は城下町です。古い家や商店が並んでいます。昼に寄った中華そば屋では、ランチでおむすびがサービスでした。帰りは、磐越道でいわきに戻りました。

最後に、「福島へ来て良かった」「福島の原発被災地がまだこんな状態だとは思わなかった」「上田さんと会えてよかった」という言葉は、何故か一言もありませんでした。

誰も福島へ来ないので、私は決意をしました。

来年1月から月1回、原発被災地を巡る1泊2日のツアーを企画します。参加人数は、軽自動車に乗れる3人までです。1人でも参加できます。期待して下さい。

【夜の森の桜並木—この先帰還困難区域で通行禁止（富岡町）】



【人っ子1人いない本当の無人駅 JR常磐線浪江駅前にある 高原の駅よさようなら 誕生の碑（浪江町）】

